

平成17年11月20日

砺波医師会誌

杏和だより

第185号

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

〔時評〕	・介護保険改正にむけて	山本 郁夫	2
〔活動報告〕			3
〔花曆〕	・卓袱台（チャブダイ）	桐沢 しょう二	6
〔散居村〕	・中国式乾杯 いまは鉄橋を渡るぞと	浅山 邦夫	7
	・ゴルフの効用？	吉田康二郎	7
	・選挙の結果を踏まえて	吉田 武雄	8
	・老人は思う	吉田 賴子	13
	・家族サービス	横川 博	14
〔新入会員紹介〕	医療法人社団寿山会	高橋三千代	16
	となみ野眼科	藤井 茂	16
	市立砺波総合病院 産婦人科	吉本 英生	17
	ひがしで医院	東出 慎治	18
	大沢内科クリニック	大澤 謙三	19
〔お知らせ〕	仲村皮膚科医院	仲村 洋一	20
〔編集後記〕		柳下 肇	22

発行所 砧波市幸町6番4号

砧波医師会

発行人 砧波医師会長 高橋 卓朗

介護保険改正にむけて

砺波医師会副会長

山本 郁夫

平成18年度より介護保険制度改定が行われる予定です。このことは介護保険が始まった際、5年後の制度見直しが規定されていたので、予定どおりの措置ということです。本邦初めて導入された制度であり、5年経った現在、いろいろ問題はあるにしろ、一応の評価がなされているようです。

今回行われる制度改定の主なもの一つに、介護予防給付というものが設けられます。これについての一次モデル事業は終了し、本誌が発刊される頃には二次モデル事業が全介護保険組合単位で行われていることと思われます。一次モデル事業に携わりましたが、これについての新しい主治医意見書にしても、認定審査にしても慣れないせいもありますが、却って複雑になっているような印象でした。

新予防給付設定はやはり財政的節減の理由があると思われます。介護保険給付が比較的軽度と認定される被保険者について、その介護が結果として今後心身の悪化進展させないようにする（＝予防）手段を導入するということのようです。それで、この方法自体、そして、それによって個々の今後の介護、医療の経済的節減ができるということのようです。しかし、改正半年前の現在、どれほどの効果予測があるのか聞き及びません。そもそも、福祉、医療はそれ自体、不適切な表現かと思いますが、非生産的で短期には投資のみかえりはなく、従って、かかる費用は多く、しかもその分野の技術的進歩は目覚しく、より増大するのは当然とおもわれます。介護保険が始まった時に既に、そのうち財政的に逼迫することが、制度の維持を危うくするという懸念がありました。実際、その後財政的に辛くなり、保険料値上げ、また、認定審査会定数減員、認定期間延長など医師の関与する部分でも諸費用削減は皆さんご存知のところです。

本来介護保険は被保険者のためだけではなく、介護者の負担軽減にも目的があつたし、また、かつての様な無暗な一般病院入院より在宅介護をめざしたものだと認識していました。さらに、制度に伴い諸種施設も増加しました。この度の新予防介護給付に際しても施設、設備を整えているところもあるとききます。厚生労働省が目論むのは前述のようにお金がかからなくて自立を支援する方策なのであろう。このことを遂行するについて、ことが却って仕組みが複雑になるだけで、結局、お金もかかり、人的な負担も増え、本来の目的効果が薄れないかと危惧するものです。これらの点につき、私たちは、医学的立場からこの制度改定がより良い方向に行くよう見守り、評価、対応することが必要と考えます。

活動報告

(平成17年5月～平成17年10月まで)

平成17年5月

- 2日 研波市役員会
6日 南砺市医会役員会
9日 定例理事会
12日 産業保健研修会
「職場巡視事例発表」
　　砺波医師会産業保健担当理事 藤井正則
「高岡地域産業保健センターの現況」
　　高岡医師会産業保健担当理事 東 貢
16日 学術・生涯教育小委員会(県医)
17日 南砺市民病院医師研修会 「慢性心不全の臨床」
　　南砺市民病院内科 石坂眞二
19日 研波救急医療・消防連携協議会
　　小児急患センタースタッフ会議
20日 地域保健委員会
23日 研波胸部疾患検討会
24日 学術講演会 「冠インバーベンション2005 一進化し続ける冠動脈疾患治療ー」
　　富山赤十字病院循環器内科診療部長 新田裕
31日 医療施設経営改善支援事業連絡協議会(県医)

平成17年6月

- 1日 医師会合併・再編のあり方を考える懇話会
6日 県・都市医師会協議会
　　研波市役員会
　　南砺市医会役員会
8日 准看護学院運営理事会
10日 健康スポーツ医学委員会(県医)
13日 定例理事会
15日 監査会
16日 産業保健小委員会(県医)
20日 第2回研波胸部疾患検討会
21日 南砺市民病院医師研修会 「FDG-PETによる腫瘍診断」
　　富山医科大学放射線部 渡邊直人

- 23日 県医定例代議員会
　　県医定例総会
27日 医師会のあり方検討会（県医）
28日 学術講演会 「運動器プライマリケアにおける血管性疾患の落とし穴」
　　　厚生連高岡病院整形外科部長 鳥畠 康充

平成17年7月

- 1日 臨時総会
4日 砺波市役員会
　　南砺市医会役員会
5日 医師会合併・再編のあり方を考える懇話会（第2回）
8日 医師連盟執行委員会
11日 定例理事会
12日 社会保険委員会（県医）
19日 南砺市民病院医師研修会 「最近の人工股関節」
　　　南砺市民病院整形外科 小林 歩
25日 済生会高岡病院病診連携システム運営委員会
　　乳幼児・学校保健委員会（県医）
　　第3回砺波胸部疾患検討会
26日 学術講演会 「高血圧と腎障害」
　　　金沢大学附属病院内科講師 和田 隆志

平成17年8月

- 1日 砺波市役員会
　　南砺市医会役員会
2日 医師会合併・再編のあり方を考える懇話会（第3回）
8日 定例理事会
16日 南砺市民病院医師研修会 「高血圧治療—最近の話題」
　　　富山医科薬科大学第二内科講師 供田 文宏
25日 産業保健サービス連絡協議会（県医）
　　県医師連盟執行委員会
31日 四産保連絡協議会（県医）

平成17年9月

- 1日 工場見学（福岡町 ハリタ金属）

- 女性医師委員会（県医）
- 2日 庄川町商工会との産業保健懇談会
- 5日 砺波市役員会
南砺市医会役員会
- 6日 医師会合併・再編のあり方を考える懇話会（第4回）
- 12日 定例理事会
- 14日 第2回医師会のあり方検討会（県医）
- 20日 南砺市民病院医師研修会 「現在の角膜移植について」
南砺市民病院眼科 吉田都是
- 26日 第4回砺波胸部疾患検討会
- 27日 学術講演会 「心血管系疾患のリスクファクターとしての高尿酸血症」
富山医科大学第二内科講師 供田文宏

平成17年10月

- 3日 砺波市役員会
南砺市医会役員会
- 4日 医師会合併・再編のあり方を考える懇話会
- 6日 砺波准看護学院戴帽式
- 11日 救急医療委員会（県医）
- 14日 第3回医師会のあり方検討会（県医）
- 17日 定例理事会
介護保険委員会（県医）
- 18日 南砺市民病院医師研修会 「64列CTによる冠動脈疾患の評価」
済生会富山病院内科 井内和幸
在宅医療の推進のための実地研修会 「在宅糖尿病患者のチーム医療」
「無床診療所における糖尿病のチーム医療」
大沢内科クリニック院長 大澤謙三
「在宅糖尿病患者への栄養指導」
大沢内科クリニック管理栄養士 田所敏美
「高齢者の在宅糖尿病療養支援としての配食サービス」
南砺市民病院内科部長 手丸理恵
- 20日 広報委員会
- 25日 学術講演会 「実地医家のための女性泌尿器科」
福井赤十字病院泌尿器科部長 小松和人
- 31日 住民健診検討会（砺波市）

花曆

..... 桐沢 しょう二

卓袱台 (チャブダイ)

卓袱台のむかしや母の覗汁
覗汁微兵検査へ父母やさし
覗汁古里ありし湯気の中
背伸びすることも無くなり覗汁
覗汁第二乙種に生きてきし



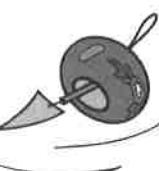
風 鈴

医書難解風鈴らよと鳴りて止む
夏落葉会費免除のハガキ来る
健診署し一人ひとりの情報保護
実盛忌転がるようす加賀訛り
諸橋と同じ重さを産みしけ
(諸橋大漢和辞典1冊は3.5キログラム)



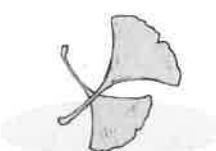
秋 夕 立

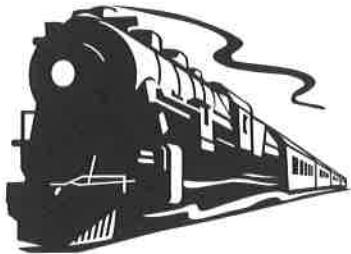
秋夕立母の遣せし庭のもの
一言へ妻の二言夜長の灯
秋灯し回せば色の変わるベン
台風へ念押しに行く木戸の門
脳細胞減る減ると聴く虫時雨



風 の 盆

越中に散居に老いて風の盆
風の盆名妓と言われたる器量
踊り果つ還らぬ人の名のみの墓
風の盆胡弓の韻を闇に引き
踊りの輪手拍子日本語美しき





中国式乾杯 「いまは鉄橋を渡るぞと」

市立砺波総合病院 総合診療科
浅山邦夫

これまで中国で三回汽車に乗っている。北京からハルピン（哈爾濱）、上海から杭州、そして南京から無錫を経て蘇州まで。北京からハルピンまでの京哈線は、東北平原を走り抜ける全長千四百キロメートル、20時間の汽車旅行である。広大な平原を走る旅で、この間にトンネルは只の一つもない。私が初めて中国を旅行した83年当時は蒸気機関車が牽引しており、ハルピンに到着したら髪の毛や顔は言うに及ばず、鼻の穴も耳の穴も煤で真っ黒になっていた。それから3日間、鼻をかむたびに煤が出てきたのを覚えている。

さて、汽車の線路は複線化されており、上り下りの両線が当然のこと隣り合って走っている。しかし、所々で急に両線が離れ始め、他方が見えないくらいの遠くに行ってしまう箇所に出くわす。これが、間もなく汽車が大きな河に架かる鉄橋を渡るという合図になる。鉄橋を渡るときに眺めると、遙か彼方にもう一本の鉄橋が架かっているのが見て取れる。そして渡り終えると間もなく、さっき離れていった線路が近づいてきて、また並んで走るのである。

なぜこんな無駄な構造になっているのかというと、実は軍事上の理由による。空爆で両方向の動脈が一度に寸断されるのを防ぐためで、一方の鉄橋が破壊されてももう一方が助かれれば代用が効くという訳である。

実は、飛行場も同様の考え方から、中国では、市内から驚くほど遠く離れた場所に造られていることが多い。

ゴルフの効用？

寿康堂 吉田医院
吉田康二郎

ゴルフを始めたのは、富山市民病院へ勤めた昭和52年からです。官舎の隣が黒崎正夫先生で、練習場への入り方、練習の仕方など手取り足取り教えて頂きました。病院から帰ると練習場へ、または2階のベランダでの素振りと。先生は毎日、そして遅れて始めた私よ

り遅くまで練習されました。私は汗をかき始めるか、汗が嫌だと感じたらそこで練習は止めてしまってよい人なのですが（ちなみに黒崎先生は無類の汗かきです）。技術的なことは、両足は平行に立つ事と握りと、とにかく球に当てること、そして基礎編の本を読むように指導されました。

初回のラウンドは千里浜G Cで、スコアはハンドカウンターも役にはたちませんでした。その後、恥ずかしさも何のその、あちこちへ参加させて頂き、ハンディは最高16まで行きました。この期間が最も面白く意欲的で、勤務医でありながら年間40ラウンドを超え、家計に負担をかけた時期もありました。ここ7~8年でハンディキャップも24まで下がりましたが、今年は何故か21の通知でした。

加齢は致し方ないとして、体力（体型？、体重）の維持の為の生活習慣の一つとしてゴルフを手段として使うのは趣味と実益を兼ねた方法の一つとしては良いと思いますが、療法ではありません。ラウンドを重ねるごとに飛距離の低下を突きつけられており、これは下半身の筋力の低下と理解しています。勤務医時代は再来日座りっぱなしでも1日6000歩は数えましたし、外来の無い日には一万歩は優に超えていました。開業後は1日1000歩にも満たない日があり愕然としました。昨年に比し今年は散歩に出る日数が少なく、飛距離の回復を目指にこれから夜の外出をしなければと思いつつ暑さに負っている今日この頃です。次にこの稿を書くときには、何らかの効果が報告できたら「良いなー」と期待しています。



選挙の結果を踏まえて

寿康堂 吉田医院

吉 田 武 雄

[選挙で自民党の大勝] 選挙で小泉首相の率いる自民党が大勝して、岡田代表の民主党が大破して、党首が前原に変更した。自民党員を離脱した綿貫と亀井は辛うじて当選した。今まで、小泉首相は道路公団を中心に特殊法人の改革に苦戦したが、残りの任期中に郵政を改革する事に政治生命を掛けた。其の心意気に国民が共感して、予想以上に自民党は勝利した。時代の変化に対処出来ない、過去のしがらみに依存する議員の落選は当然だ。特に郵政民営化に反対して自民党を離党した前議員は殆ど大敗した。

[綿貫と亀井の新党] 自民党を離脱した綿貫と亀井が今回当選したのは長い年月を掛け

て地元民の為に尽くした地域に対する利益誘導の返礼として当選した事は地区住民の当然の行為だ。特に和を貴ぶ農村型地域社会の連帯感だ。此れは支持者が用意した引退の花道だと自覚すべきだ。今回、自民党を離脱した各位は小泉首相の任期中には自民党への復党は無い事は当然としても、既に各地区に新しい議員が定着して居るから、今後とも自民党に復帰する事は不可能だ。

[内閣改造] 臨時議会では開会、早々に郵政の民営化は可決される。次いでポスト小泉の為の内閣改造人事だ。小泉首相は自分の引退の花道を自演する事に為る。かなりの幹部は抵抗勢力の烙印を押されて居るので、次期首相の候補者には為れ無い。誰を改造内閣の主要ポストに付けるかだ。議員定数の削減も重要な議題だ。当分、新しい幹事長をはじめ、主要閣僚の力量試しの1年間だ。切磋琢磨で国民的支持を得たものが決選投票に勝ち残り、次期首相になる事に為る。誰が為るとしても、次期内閣の政策の中心課題は、議員年金を含む年金改革と累積赤字国債の解消を目指す財政再建のシナリオだ。小泉内閣は5年間程度で、収入と支出を均衡させると言明して居る。消費税の増税が財政再建の主要条件の一部だ。誰が次期首相に為るとしても、継続の課題は小さな政府と未だ多数に残る特殊法人の民営化だ。其の為には民営化が出来ない特殊法人は各省庁に再編入して、年間の省庁の予算で統括する事に為る。此の様に予算の削減に蛮勇を奮う事の出来る人が可能か、有識者の批判に耐える人選が今後の日本の再生の鍵と為る。

[民間に出来る事は民間に] 小泉首相の口癖だ。人件費の削減と無駄な実行予算の削除だ。省庁の細分化で業務の一部が民間企業に移行する事で省庁の活動範囲が縮小して役人の削除が可能だ。一人課長で部下は民間会社と言うような組織改革が多数に出来る事になる。役所内に民間会社が同居することが日常となれば法人との人事の交流も行われて、民間企業の活力が予算の減量と結び付く。土木工事の公開入札制度に於ける設計見積もりの公開。予算価格の公開と減額目標の明示。安全が確保されれば設計変更の自由度性で実行予算の更なる軽減が期待出来る。不必要と国民が認める継続実施中の工事の中止を含む見直し。代表的な工事は有明海干拓の功罪の再確認。継続事業を途中で中止するのは政治家の責任だ。行政では継続中の事業は中断出来ない。

[民主党の再生] 絶対少数に転落した民主党は、公労組依存の体質を改善し党内の意見の集約が必要だ。一見、資本家と労働者の併存政党の様な感じだ。此れでは戦闘的議会活動が出来る筈が無い。今、出来る最も有効な活動方針は国民の世論を巻き込む事だ。最初の仕事は「全ての議会、委員会は原則テレビ放映」する事だ。NTTと民放の共同で交互の時間帯で放映する。テレビ放映出来ない場合は、すべての議会活動のビデオ販売を複数

の民間に委託する。N H K の日曜、朝の討論の様に委員会も円卓で複数の議員が列席し、議長が行司役で中央に位置して拳手発言を実行すれば野次の必要が無い。すべての会議を放映すれば発言中の野次は国民の批判を受ける。テレビの議会中継は面白いが、議員が勉強して居ないので論戦は陳腐だ。野次は議員の発言内容への不満と議員の品格の不足と勉強不足の表れだ。委員長は公平を期する為に議会議長の様に党籍を離脱する事が必要だ。委員長は公平に発言を求めて反対の場合は野党に必ず代案を求める事が基本だ。反対の為の反対は許されない。現行の議会の運営では、野党の質問には代案が無い。時間を引き伸ばす為の無駄な論議が多すぎる。従って放映と円卓の設置を自民党は反対出来ない筈だ。ぐずぐず言う自民党議員も居るに違いないが、小泉首相は民の声は天の声だと明言し、民の声が政治の流れを決めると考えておられる。従って民主党は次期自民党内閣に対抗して国民の納得する実行可能な対抗案を議会で討論すべきだ。此の対抗案の演出が実現して国民の世論となれば、現在、自民党の方針に反対して自民党を離党した落選議員にも民主党から立候補が可能だ。

〔消費税の引き上げに際して〕 首相の交替と共に消費税引き上げが議題の中心となる。次期内閣での消費税の値上げ論議の必要は国民も認めて居る。小さな政府の実現に努力して、初めて消費税の引き上げ問題が正式の議題となる。民主党は消費税の引き上げの前に実施する変革を、次期首相に論戦する心構えが必要だ。今迄の予算は単年度で、節約して予算が余れば、明年度は予算が減額する。これが予算の無駄づかいの始まりだとは、役人自身は理解して居るが、特別な事業予算は部課別に複数年度の予算で事業する事が必要で、民間企業の経営を見習う必要が有る。当然、複式簿記の導入も必要だ。此の対策として民主党の政策秘書を集団化して党の頭脳集団として政策立案、法律作成の専門家に育成する事が必要だ。政策秘書費は党費と議員個人の分担で維持して、複数の議員秘書を兼務する事が必要だ。此の制度で秘書は議員の当落に関係なく身分が長期に安定することが大切だ。此の政策秘書集団が次期候補者の育成の場でも有る。松下政経塾では20数人の議員が誕生して居るが、此の政策集団は毎日が現業だから失業の心配も無く真剣に勉強する事は二大政党の実現の最短距離だ。

〔消費税の引き上げの条件〕 消費税を上げる為には、①預金者の為に世界規準並に預金金利の引き上げが先決だ。②財政支出の徹底的な見直し。③整理統合すべき特殊法人の名簿と実施時期の明確化。④宗教法人への固定資産税設定の必要性に関する理論武装と公明党との徹底的論戦の必要性。⑤O D A と思いやり予算の見直し。⑥国會議事堂、県会議事堂、市町村議事堂への固定資産税設定に関する理論武装と政府与党との徹底的論戦。⑦特

別行政法人の固定資産税負担能力の問題。公的病院も、老健施設も固定資産税の対象になる筈だ。

[赤字国債の現況と赤字国債の消化と今後のドル円相場] 国民の預金は1500兆と呼称されて居るが、個人負債の累計も250兆程度（住宅ローン等）だから実質預金は1250兆だ。政府の累積赤字は1100兆円（国、地方自治体、特殊法人等）だ。 $1250\text{兆} - 1100\text{兆} = 150\text{兆}$ が国内預金の余力で赤字国債を消化出来る原資だ。毎年の赤字国債は50兆だ。従って赤字国債を国内の金融機関で消化出来るのは此の仮では3年が限度だ。国外で国債を販売する時は4～3%の金利が必要だ。此の場合は既発債が値下がりして、ようやく回復した銀行が再破産する。従って国外で国債の販売は出来ない。この事実は金融庁が認めて居る。5年で収入・支出が0に為るとすれば、2年間は日銀が市中より既発国債を買い上げて、新発国債は金融機関に買わせる事に為る。其の頃には郵便局は民間会社だから、優良預金目当てに外国銀行に買収されている筈だ。郵便局が外資系に為れば、低金利の赤字国債を買う事は無い。日銀が新発国債を買う事は日銀法で禁止されているが、既発債を市中より購入する事は可能だが、此の行為は自己資本比率が低下する。現在でも8%を割り込んでいる。自己資本比率の低下は日銀の貸付証券に相当する円が値下がりする。2008年頃には円の価値が低下して当然、ドル円交換比率は低下して150～200円に為るはずだ。輸入原材料の高騰→悪性インフレが3年後に必然的に発生する。元大蔵官僚でミスター円と呼称されて居た榊原の現在の心境を聞きたいが、某大学の教授に収まって沈黙を続けて居る様だ。

[次期選挙に際して] 政治の世界では一寸先は闇と言う俗言が有る様だが、絶対多数の自民党は解散が無いから次期選挙は2009年9月だ。其の前の06年9月が小泉首相の引退、後継首班の任命。其の3年後の09年が選挙の年となる。此の09年の選挙を目標に日本の政治・経済の現実に対して、国民の不満・不安を解消する処方箋を示す事が民主党の躍進のチャンスに為る。民間では最低3年のスパンで見通しを立てて、設備投資や人件費の削減を企画する。日本経済の見通しは今後の2～3年は中国の好景気に支えられて株も上がり、企業は軒並に好決算だ。

[上海万博の次ぎに来る不況] [赤字国債の解消と国民資産の霧散] 名古屋万博は1兆円の経済効果で終演する。中国経済はオリンピックより上海万博まで拡大して、日本企業に様々な経済効果を及ぼした。その後は円安によるインフレの促進と輸出の低下による企業活動の低下で財産の目減りは著しい。従って株も乱高下を繰り返して暴落し、その後、現在のデフレの反動で13年間程度（デフレの年月と同一期間）のインフレが続く事に為る。60年を人生では還暦と言うが、経済周期も60年サイクルを繰り返すと言う説が有力だ。

(終戦当時の経済に逆戻りすると考えれば良い) 政治の現状から、未来を予測する事は困難だが、国民の国内預金が累積赤字国債の購入に費やされて居る。インフレで貯金も国債も値下がりして、貯金は0価値。政府資産も民間に売却され政府機構も軍隊と警察以外は全て民間借り入れの状態となる。軍備と警察以外は全て売却して、役所も学校も現在の独立行政法人も借家生活だ。此の様な経過を示して $09 + 15 = 2025$ 年には漸く日本の政府も企業も国民も幸せになれる。現在減少して居る孫が成人した頃には、世代の交替で、我々は既に存在しないか、生きて居ても社会活動の枠の外だ。60年を経済サイクルとすればハングリーを何歳頃に過ごすかと言う事になる。60年の人生に一回はハッピーな生活を過ごせる時代があるという事だ。

[インフレ対策の有無] 終戦当時、預金封鎖と財産税で一般の国民はカラッケツに為った。ソ連の破産でインフレは暴騰し6年の経過で漸く沈静した様だが、まだ陳旧化した原子力潜水艦の解体能力が無い。アルゼンチンも国債をデホルトした。ペルシャも米ドルで国内経済がかろうじて保たれて居る。共通の対策は資本の国外移動と金の保持と、東京一部の優良の土地だ。一番簡単な事として金が買われて現在急速に値上がりを始めた。石油は思惑もある様だが、金は一番の財産の保全だと言う意見が多い事による。国内の外国銀行は国内法で規制される筈だから国外移動は出来ない様だ。香港へ遊びに行って預金する事が一番の様だ。その後は現在では適当に送金が可能の様だ。100万以上の送金は銀行が税務署に届ける事の様だ。

[福祉と医療の今後] 少子・高齢化率に比例して、高齢者の医療費・看護費は増加する。入院の食事費の徴収は決定して居る。何れ通院、入所ともに20%負担、経管栄養の薬剤費は自己負担。個室費の割増部屋代、施設の内部改造で、申請によりショートステイの定員オーバーの許可。此の定員オーバーが3年程続けば入所定員の増加が認められる。医療費の抑制を期待して重症な介護度患者に対する投薬制限として、レセプト毎に脳代謝薬の使用説明の記載を義務づける。

[ボランティアの介護人扱い] 健康な高齢者は生活弱者の看護は当然とされる。ホランティア制度の確立だ。60才までを行動ボランティア、65才までを介護ボランティア、65才以上をリハビリボランティアに分類する。①行動ボランティアは遠距離の両親にボランティアを受ける権利を譲る。②看護ボランティアは自分の非介護時の支払いに利用出来る。③リハビリボランティアは1/2時間に短縮して自分の老後の為に時間貯蓄する。介護人と同等の勤務状態で、二人で正職員一人分の勤務とする。似たような事は各地の自治体で試みられて居るが、政府指導で行動化されて居ない。此れは民主党の格好の材料だ。政策秘書

に新聞記者が共同で実施して居る自治体を訪問して実地に即して議案を作り老人介護の福祉委員会に議案として提出すれば良い。格好の新聞材料だ。

[靖国神社問題] 元首相の橋本は政界を引退した。橋本は現在も遺族会の会長の筈だ。小泉首相は靖国神社の参拝に執念を燃やして居る。各村々には忠靈塔があり、町では招魂社、県では護国神社が有る。有志の奉納で年一同程度祭礼があり、遺族会と軍人恩給会で維持管理して居る。此の忠靈塔の総本山が靖国神社だ。明治、大正、昭和の戦死した軍人を合祀して居る。明治維新前後の犠牲者の合祀の有無は知らない。吉田松陰、坂本龍馬、西南戦争の犠牲者 賊軍とされた西郷吉之助及び他の兵士等の合祀の有無は知らない。二・二六事件の犠牲者、韓国で不慮の死を遂げた伊藤博文等も合祀されて居るのか、私は知らない。東京裁判のA級戦犯も刑を執行されれば贖罪した事になり、全ての罪業も消滅するから日本神道の禊をうけて合祀されて居る。各国の首相は、異国を訪問した場合は、しばしば、戦死者の靈前に弔問する。日本ではA級戦犯を合祀してあるので弔問を受ける事が出来無い。死ねば全てが浄化すると言う思想は儒教には無いようだ。従ってA級戦犯の靈を分祀して、近隣諸国の外交に貢献する事が元橋本総理の政治生命を全うする事だ。テレビ放映では東条元首相の孫の意地張り婆さんが放映されて居た。橋本元総理もてこずる筈だ。新聞社説のもっともらしい論説が、頑固婆さんには一番説得効果が有る様だ。新聞は小泉首相の靖国神社参拝を事件として取り上げる事に興味有るが、外交上の国策として分祀の必要性を論じた社説は無い様だ。此の方向でメディアに働きかけるのは幹事長の役目かも知れない。多忙な幹事長に耳打ちするのは有能な政策秘書の役目だ。

以上、様々に思いつくままに記載したが、読み返せば老人の繰り言の様だ。似たような話にカンタンの夢枕が有る。人生は一睡の夢枕だと達観する事が必要な様だ。

(参考文献 第二海援隊 浅井隆の著書を大いに参考にした)

老人は思う

ケアポート庄川

吉田 順子

最近、膝が曲がらなくて、歩行が非常に悪くなつた。患者には、歩きなさい、歩きなさいと言ひながら、無精な私は、つい歩かないで、近くのスーパーへ行くのも乗り物を利用し、食べ物も甘い物を好む方なので少しづつ体重が増えてしまう。

若い頃は夜中まで、しかも今の様に舗装してない砂利道を歩くとか、自転車で時には一

里以上も夜中まで乗り廻したりしたものだ。時には自転車を倒して、其の下にはまつたりもしたのだ。次第に、膝の関節も変形したのかなと、膝をさすって考える。昔は皆さんがその様な生活だったのだから、私の不摂生の故なのだから、誰もうらみようもない。

戦後50余年が過ぎて、何も無い時代から品物であふれる時代になって、戦争を知らない戦後生まれの人も50歳を過ぎるようになった。助け合って一生懸命生きた時代から、有るのは当然とばかりに我がままがあたりまえになって、イライラするからとか、クシャクシャするからと言って、誰かれ見境無く危害を加えて平気な人がニュースで聞かれるようになった。やっと物が手のとどくところにあふれるようになったと喜んでいた私ですが、最近の若者には無を体験する勉強も大切なのだと、驚いてテレビのニュースに聞き入るこの頃です。働いて働いてどん底からはい上がる、そんな大変だった時代から、一寸働けば何でも手軽に手に入れられる時代に変身して、指導者は大変でしょうが、わかり易く根気良く指導を続けて頂いて、良き温かき時代を皆で築き上げなければいけない時は今だと、老い先の見えた老人はヤキモキしています。

実りの良き時代から冬に入り又半年間、がまんの季節が参りますが、老人は皆様の健康をお祈りしています。



家族サービス

砺波厚生センター

横川 博

先日、久しぶりに家族でドライブに出かけました。子供達が小学生の頃は休日にはよくあちらこちらにドライブに出かけていたのですが、子供も次第に大きくなり高校受験だ、大学受験だと言っているうちに生来の出不精も手伝って出かける機会もめっきり少なくなっていました。わが家でドライブに出かけるときは特に目的地を決めず、今日は東、明日は西と気ままに車を走らせるということが多く、時々気に入ったところがあれば車を止めて休憩したり、風景を眺めたりしております。その点、職業柄県内のあちこちの保健所に配属され地域のいろいろな施設におじゃまする機会も多いので県内の地理状況や道路の状況にも多少なりとも知識があるので便利です。ただ、記憶というのはかなり曖昧なところもあり、「確かここで曲がればよかったな～」と思ってハンドルを切ればたいてい道を一本か二本間違っており、なかなか目指すところに着かないどころか同じ所をぐるぐる回っ

たり、あさっての方向に行ってしまうということも間々ありました。それもまた楽しと家族を無理矢理納得させつつ、ご機嫌伺いのために大盤振る舞いをするという財布の中身には大変つらいことを繰り返し、これも家族サービスだと自分の方も納得させ、車を運転して帰ってくれば疲れだけがどっとたまるという「お父さんの」悲哀と喜びを感じていたように思います。最近はたまにしか出かけなくなりましたが、久しぶりに訪れた場所で建物が古くなってくすんできていたり、閉じられてしまった店などを見ると世の中の移り変わりだというもの寂しく感じてしまうのは年をとってきたせいでしょうか。この先子供らが巣立っていく夫婦二人の生活になっていくのでしょうか、そのときにはどんな家族サービス（女房孝行？）をしているのでしょうか。考えたくもないような、楽しみなようなそんな思いを持つ今日このごろです。



新入会員紹介

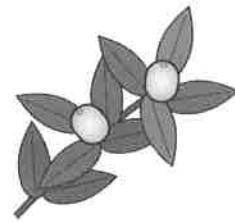
医療法人社団寿山会

高 橋 三千代

この度、砺波医師会に入会いたしました高橋三千代と申します。

現在は、(砺波)あおい病院、福光あおい病院の非常勤医師として主に病棟の患者様の医療に携わっています。昭和49年、鹿児島に生まれ、平成6年に北陸の地へ参りました。冬の寒さと雪に驚きつつも、まもなく日本酒(立山)と日本海の幸の味を覚え、今では身も心も北陸人となりました。

平成13年に富山医科大学第1内科に入局し小林正教授のもと研修を積み、平成16年に出産を契機に現在の職場に入りました。療養型病床群で認知症や寝たきり等、症状を自ら訴えることのできない患者様の変化を早期に発見し対応するのに看護師、介護士にずいぶん助けられています。「ばやく」、「やめかかる」、「だら」、「ちんとしとられま」、「ねまられ」、「まって、まんで」・・・。富山弁での患者様からの問い合わせやスタッフの報告に即答できず、ニセ北陸人としては冷や汗をかく場面もありますが笑い飛ばして、なんとか毎日楽しく仕事をしています。趣味は7歳からやっている剣道です。とは言え、ここ数年は仕事を理由にまともに稽古をしていません。子育てが一段落したら再開したいと思っていますので、会員先生もしくはお知り合いで現役剣士がおられましたら、ぜひ稽古に誘っていただけると幸いです。それはさておき、医師として、まだまだ経験不足の若輩者です。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



となみ野眼科

藤 井 茂

平成17年6月2日より砺波市鍋島で“となみ野眼科”を開院させていただいております。昭和31年生まれの金沢育ちです。金沢大学医学部を昭和57年卒業後、同眼科学教室に入局し、大学病院勤務、UCSF留学、関連病院勤務を経て現在に至っております。県内では厚生連高岡病院と氷見市民病院に勤務していました。先祖は井波で油屋をしていたようで家にはちょん髷羽織袴脇差をさしたご先祖の肖像画が残っています。

院長といっても雇われの身ですが、今までとは違って雑用が増え、患者数は少なくて

も何となく多忙な日々を過ごしています。診療は外来のみおこなっています。また、浅ノ川病院眼科部長の白尾裕先生ご協力のもと土曜午後に予約制で白内障手術を日帰りでおこなっています。翌日の手術患者診察もあり日曜午前は診療しています。火曜全日と木曜午後は休診です。金沢市直江北に自宅があり、高速道路で通勤しています。時間は30分あまりです。ただ、冬季は甘くないものと覚悟しています。

趣味歴はアマチュア無線、旅行、山歩き、絵画、写真などです。無線は中学のときに免許をとりました。今でもたまにDX（海外局）コンテストに参加しています。山歩きは医学部学生時代に白山診療班にはいり毎年夏の白山に滞在しOBDrの手伝いなどしながら室堂を起点に日帰りの山歩きをしていました。絵画は金大本部美術部にはいりへたな油絵を描いていました。そのとき知り合ったのが今の家内です。

ところが最近、ほとんど無趣味の生活で太ってしまいこのままいくとまちがいなくメタボリックシンドロームになる（もうなってるかも）と考え、健康のためできるだけ運動をつづけたいと思うこのごろです。

今までとは環境が変わり、わからないことばかりです。砺波医師会の皆様、ご指導ご厚誼のほどよろしくお願ひ申し上げます。

市立砺波総合病院 産婦人科
吉本英生

みなさん、はじまして。砺波総合病院、産婦人科の吉本英生です。私は平成14年の9月に砺波総合病院へ赴任して参りましたので、砺波での生活も4年目を迎えております。変わった時期の入会ですが、母体保護法指定医の関係で慌てて入会させていただきました。よろしくお願ひいたします。

簡単に自己紹介をさせていただきます。私は高校までを山口県の光市という所で過ごしました。少し前に世間を騒がせた、教室内での爆破事件があった光高校に通っておりました。海水浴場しかない田舎町で、田舎臭く育ちました。大学は高知医科大学を卒業しております。卒業して10年になりますが、早くも母校が無くなってしまいました。富山でもそうですが、統合の波に飲み込まれ現在は高知大学医学部となっております。大学時代は水泳部に在籍し、泳いでばかりいた劣等生です。今でも時々仕事後に高岡のジムへ出向き泳いでおります。小学1年になる息子が水泳を始めたこともあり、最近では競泳への復帰を目指しています。大学時代の水泳部のマネージャーをしていたのが今の妻なのですが、彼

女が富山の出身であったため、大学卒業後は金沢大学産婦人科に入局しました。大学で1年の研修をした後、厚生連高岡病院で働き砺波に来ましたので、富山での生活も9年目となります。自分としては、それなりの富山弁を話すようになったつもりですが、まだまだ「先生はどこの出身け？」と患者さんに聞かれてしまう程度のものです。聞き取りの方も、年輩の患者さんの言葉には理解できない言葉が時々あります。

今、砺波総合病院としても病診連携を進めておりますが、私個人としてもこれから地域医療はそうあるべきだと思っております。開業の先生方と中核病院とのスムーズな連携こそが質の高い医療につながってくると思います。まだまだ若輩者ではありますが、より良い医療に向けて出来る限りの努力をしていきたいと思いますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

ひがしで医院

東 出 慎 治

私は昭和63年に富山医科大学（現 富山大学）を卒業し、同第一外科に入局、当初は血管外科に興味がありましたが結局は消化器外科医として研修を行いました。さまざまな規模の病院で勤務できたことが大変有意義でしたが、特に卒後8年目で赴任した新潟県立妙高病院での7年間の経験が今の自分の原点であると思います。その頃の自分は総合病院で手術経験を積み、外科医としてひとり立ちしたいと思っていましたが、現実には手術以外のさまざまな患者（内科系外科系を問わず）に対応する必要がありました。外科の入院患者30人のうち純粋な外科の患者は10人くらいで何でもやっていたように思います。ここでの経験で身についたことは、やったことがないことでも逃げないことと、知らないことは自分で調べて解決するということで今もそのスタイルは変わっていません。

結局妙高での約7年で全麻の手術症例は約300例でしたが、鏡視下手術が中心となっていく時代の流れもあり、手術よりもプライマリケアに目覚めることとなり、ジェネラリストになりたいと思うようになったことが開業につながったと思います。

開業してまもなく1年になりますが、やりがいがある半面経営面や人事面、その他多くの雑用などで悩みも多く、理想の診療にはまだまだほど遠いと感じています。無床診療所ゆえできることにも限界がありますが、マンネリ化を防ぐためにも可能な限り新しいことに挑戦したいと思い、最近簡単な位相差顕微鏡を購入し、血液分析を行いサラサラかどうかについて観察しています。

これからはプライマリケア医として過去の経験だけでなく、患者さんから学んでいく姿勢をもち続け、専門外の分野の診療レベルもさらに向上させたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

大沢内科クリニック

大澤謙三

7年間勤務した市立砺波総合病院を辞し、4月から砺波市寿町で「大沢内科クリニック」を開業させていただきました。砺波総合病院在職中は多くの患者さんをご紹介いただきありがとうございました。主に糖尿病と内分泌疾患を中心に専門性を保ちながら砺波医療圏の皆さんのお役に立ちたいと思っています。

医師会の新参者でこのようなことを述べるのは大変生意気かと存じますが、折角の機会をいただきましたので私なりの抱負を述べさせていただきます。今願っていることは三つ程あります。一つは糖尿病を中心とした生活習慣病の一次予防から二次、三次予防までを一貫してフォローできるシステムを砺波市に構築できないか、そのための有能な人材を結集できないかということです。今は行政、総合病院、開業医がバラバラにやっていて労力の無駄が多いと思います。

二つめは医師会と砺波総合病院との協力態勢がもっと密接なものになって一緒に砺波市（あえて砺波医療圏とは言いません）の医療態勢が素晴らしいものになって欲しい。医師会と総合病院との将来に向けての話し合いが少な過ぎるよう思うのは単に私が門外漢だったためだけでしょうか？医師の再教育なども総合病院にセンターを置くべきだと思います。

もう一つは自分の首を絞めるようなことですが、内科急患センターは小児急患センターに隣接させて、一次救急は全てそこで診る（従って従来の当番医はなくなる）方が良いと思います。一次救急であっても求められている医療レベルは高度になっています。忘れた頃にくも膜下出血や大動脈解離が歩いてやってきます。血液生化学検査や画像診断も駆使できる一次救急をするのが住民の要請だと思います。その証拠に土日祭日は総合病院の当直医は一次救急患者の診療でヘトヘトです。総合病院の先生方には二次救急以上の診療をお願いし、少しでも雑務と激務から解放してあげて、燃え尽きて病院を逃げださなくてもよいように、元気な頭と体で患者さんに丁寧な暖かい仕事ができるように応援すべきだと思います。総合病院で燃え尽きかけて開業した人間の願いです。

お知らせ

学校伝染病 第3種「その他の伝染病」に関する日本臨床皮膚科医会の統一見解（平成16年12月作成）があります。

仲村皮膚科医院 仲 村 洋 一

皮ふの学校伝染病について

保育園・幼稚園・学校へ行ってもよいか？ 休まなければならないか？

1) 手足口病

手足の水ぶくれが乾いて、口内炎が治っても、便の中には原因のウイルスが長い間出できます。トイレで用を済ませた後は手洗いをきちんとしましょう。

口内の発疹で食事がとりにくい、体がだるい、下痢、頭痛などの症状がなければ、学校を休む必要はありません。

2) 伝染性紅斑（りんご病）

顔が赤くなり、腕や腿、体に発疹が出たときには、すでにうつる力が弱まっていることから、発熱、関節痛などの症状がなく、本人の健康状態が良好であれば、学校を休む必要はありません。また、いったん消えた発疹は日光に当たったり、興奮したり、入浴後などに再び出てくることがあります、これらは再発ではありませんので心配いりません。

3) 頭虱（あたまじらみ）

互いに触れ合って遊ぶ機会の多い幼児・小児には最近ではよく発生します。発生した場合はその周囲がみんな一斉に治療を始めることが大切です。一人を出席停止にしてもすでに周りにうつっている場合もあります。頭虱は決して不潔だから感染したのではありません。頭虱だからと差別扱いしてはいけません。治療処置を始めさえすれば、学校を休む必要はありません。

4) 伝染性軟属腫（みずいぼ）

幼児・小児によく生じ、放っておいても自然に治ってしまうこともあります。それまでには長期間を要するため、周囲の小児に伝染することを考慮して治療します。プールなどの肌の触れ合う場ではタオルや水着、またプールのビート板や浮き輪の共用を控えるなどの配慮が必要です。この疾患のために、学校を休む必要はありません。

5) 伝染性膿痂疹（とびひ）

水ぶくれやびらんからの浸出液を触ったり、引っ搔いたりすると、中の細菌で次々にうつります。特に鼻の入り口には原因の細菌がたくさんいるので鼻をいじらないようにしましょう。病変が広範囲の場合や全身症状のある場合は出席停止を必要とすることがあります。病変部を外用処置して、きちんと覆ってあれば、学校を休む必要はありません。



砺波医師会誌 第185号 編集後記

新しい紙面になり第2号目の杏和だよりをお送りします。年2回の発行となり「速報性」という意味では以前に劣りますが、編集委員一同充実した紙面にするべく努力したいと思っておりますので、ご意見がありましたらぜひお聞かせください。

さて、改革が叫ばれて久しい昨今ですが、「聖域なき改革」というのが医療の分野に来るのは間違いなさそうです。「国民皆保険」の体裁は保ちつつも経済的に恵まれた人がより良い医療を受けられるといいういわゆる欧米型の医療体制になるような気配もあります。医療費の抑制という面では致し方ないのかもしれません、これでよいのだろうかとも思います。先日とあるウェブサイトで医療改革についての意見として、欧米型の医療制度をまねるのであれば、医療費を国が面倒見るからすべからくどんな患者も診療をしなさいという「応召の義務」を廃止すべきというものがありました。なるほどなど納得してしまいました。改革というのはここまでやらないと改革とはいえないのだろうなと思います。国民からの強い反対が出るのは間違いないですし、規制だけかけて絶対に責任をとらないお役人がどこまで我々の意見を聞いてくれるかはわかりませんが、いろいろなところに声を上げなければいけないのだろうと漠然と考える今日この頃です。

柳下 肇 記

〔広報委員〕 八尾 直志、高桑 健、家接 健一、柴田 崇志、野村 忠、
藤井 正則、富田喜久雄、松 智彦、窪 秀之、柳下 肇、
福井 靖人